



令和5年度

架け橋プログラム モデル地域での取組

今年度、モデル地域である磐梨中学校ブロックでは、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、一緒に子どもの姿を語り合い、架け橋期のカリキュラムの開発・充実を目指した取組を行っています。豊田小学校、磐梨小学校、いわなし幼稚園、とよた保育園、の保・幼・小で取り組んでいる架け橋プログラムについて紹介します。

架け橋カリキュラム 開発会議

小・中の校長先生、保・幼の園長先生、架け橋担当の津田先生、野田教頭先生が集まり、架け橋プログラムでの取組について計画をしたり、振り返りをして、熱心な協議が行われています。連携から接続へ“つながる”とはどういうことか、交流活動を見直し、どんなことから始めるか等、実際の子どもの姿や先生方の意識の変化を基に意見交換し、情報共有されています。一つ一つの言葉や姿を丁寧にみとり、いろいろな社会でたくましく生きる力をつけてほしい。人とつながり、互いに認め合ってほしい。と、目指す子ども像について熱く語っている姿が素敵でした。

磐梨中学校ブロック夏季研修会 × 幼児教育推進合同研修会

県のスーパーバイザーの岡堂先生に『幼児教育と小学校教育との接続について』の講話をしていただき、市内の保・幼・こ・小の先生方にもオンラインでご参加いただきました。集合研修に参加された磐梨中ブロックの保幼小中の先生方は講話の後にグループ協議をし、意見交換をしてつながりを深められていました。隣の園や小学校にどんな先生がいて、どんな思いで子どもたちにかかわっているかを知ることができたことで、さらに深いつながりがもてたと実感されてきました。



<保育体験ツアーの感想・気づき>

- ・実態把握ができ、生活環境の変化の大きさを知った。スムーズな移行につながるための環境の工夫について、全職員が意識するきっかけになった。
- ・園で経験してきていることが分かった。10の姿の視点で協議ができた。
- ・困った時にヘルプを出すことができていた。小学校でもその力をつけさせたい。
- ・保護者の安心感につながった。



<オンライン研修の感想・気づき>

- ・それぞれ大事にしてきたことがあるので、深く見ていくことで、架け橋になると感じた。捉え直しの必要性も感じた。
- ・交流はあったが、接続になっていなかったことに気付いた。
- ・自己決定できる場をつくり、認めていきたい。
- ・幼児期の終わりまでに育てたい姿は到達目標ではなく、方向目標だと知った。保育目標と教育目標を共有していきたい。

保育体験ツアー



授業公開

保育園・幼稚園の保育に小学校の先生方が参加されたり、小学校1年生の授業を見合ったりしながら、先生同士のつながりが深まっています。子どもの姿を中心にした協議の中で、互いの取組や姿勢を認め合ったり、新たな視点から互いにヒントとなるような意見交換をされたりしていました。

顔がわかり、気軽に話せる関係になったことで、園同士の横のつながりや園と小の縦のつながりが深まっています。

<授業公開の感想・気づき>

- ・授業の中で子どもの思いに共感したり、めあてを振り返りながら意識できるような声掛けをされたりしていた。
- ・園で育成した力が、授業のねらい達成のためにどのように生かされているかが肝になる。
- ・目指す子ども像に沿ったテーマで協議をすると深まる。



架け橋期のカリキュラム開発とは、幼児期に培われた育ち「どのように育ってきたのか」を、小学校以降「どのように育っていくのか」、双方が見つめ合いよりよく繋いでいくこと。保育体験には校長先生から司書・養護教諭の先生まで、全職員で参加されており、協議が深まっていました。子どもの姿を中心に語り合っていく中で、方向性が見え、連携から接続につながっていく一つ一つの積み重ねが子どもの育ちに確実に繋がっていると感じます。学び合える仲間がいるって素敵ですね。